

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1473800603
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会
事業所名	グループホーム そまやまの里
訪問調査日	平成 21年 3月25日
評価確定日	平成 21年4月30日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473800603
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会
事業所名	グループホーム そまやまの里
所在地	神奈川県横浜市都筑区川和町1813 (電話) 045-949-3026

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月30日

## 【情報提供票より】平成21年 3月11日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤	4 人, 非常勤 22 人, 常勤換算 2.25

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 119,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4)利用者の概要( 3月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	たちばな台病院 ・ 加藤在宅医療クリニック ・ 地挽歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は横浜市営地下鉄川和駅から徒歩5分ほどの閑静な住宅地に立地し、木造平屋造りの建物は周りの住宅と調和している。2つのユニットをはさむ中庭にはベンチを置き、利用者のくつろぎの場となっている。  
 ◇「一人ひとりの生活作り」を理念に掲げ、部屋にこもらず、他の利用者と共に生活する支援が行われている。今ある力を大切にし、できないところを支援、見守る介護サービスを目指している。  
 ◇職員の気づきを大切にし、「一口連絡ノート」で職員からの提案を受け、日々の介護に取り入れている。  
 ◇医療連携体制を導入、これを「在宅医療クリニック」機能と捉え、24時間の医療・介護連携、緊急時や終末期の対応など、利用者と家族に安心感を与えている。

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> ・改善課題の「意見箱の設置」については、家族の来訪時や家族会で日常的に何でも話せる家族と事業所の信頼関係を構築しており、意見箱は必要ないとしている。 ・「事業所独自の防災訓練」については、既に消防への通報・初期消火・避難訓練などを実施し、今後地域の方も参加する防災訓練を近々に実施予定である。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> ・4回目の受審であり、職員は外部評価の意義を理解している。職員は自己評価を日々の対応の振り返りと気づきにつながるとの認識の上に取り組み、ユニットごとに検討して管理者がまとめた。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> ・2ヶ月に一回開催している。メンバーは民生委員、都筑区役所担当職員、地域包括センター職員、各ユニットの利用者と家族、事業所管理者、リーダーである。会議では事業所の現状報告と問題点、行事の取り組み、地域ボランティアの交流についてなどを話し合い、サービスの向上に向けての意見交換が行われている。 ・会議を通して、地域の方に「グループホーム」を理解していただけるようになった。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> ・日常的に家族とのコミュニケーションを大切にしており、家族の面会時に不安な思いや要望を言いやすい雰囲気をつくり傾聴している。 ・2ヶ月に1回家族会を開催し、家族からの意見や要望を聞いて、その内容についてカンファレンスで検討し、運営に反映し改善点を家族に報告している。出された苦情や意見については、運営推進会議で報告している。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> ・利用者は自治会に加入し、盆踊りや敬老会に参加し、散歩時、近隣の方と挨拶をし、会話を交わしている。 ・ボランティアによる工作や行事への参加(フラダンス、フルーツ演奏、日本舞踊、歌や劇)協力があり、中学生の職業体験学習も受け入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「一人ひとりの生活作り」を理念に掲げ、具体的には利用者を尊重し、日々の生活では家庭的な雰囲気の中で、その人らしい主体性を持って、地域の方々との交わりもある暮らしができることを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各ユニットの玄関に運営方針を掲示している。 ・毎月のカンファレンスや朝夕の申し送り、昼のミーティングで、日々の支援が理念に沿った対応になっているかを振り返って検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・利用者は自治会に加入し、地域行事の盆踊りや敬老会に参加し、散歩時、近隣の方と挨拶をし、会話を交わしている。 ・ボランティアからは日常の工作支援や、行事の時にフラダンス、フルート演奏、日本舞踊、劇などの参加を得ている。 ・事業所は中学生の職業体験学習を受け入れ、利用者に喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価は今回が4回目の受審であり、職員は自己評価が日常業務の振り返りと気付きにつながることを認識して取り組み、ユニットごとに検討してまとめた。 ・昨年の評価結果は職員会議と運営推進会議で報告、検討して改善を図ってきた。		

施設名:グループホーム そまやまの里 様

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、出席メンバーは民生委員、区役所担当職員、地域包括支援センター職員、各ユニットの利用者と家族、事業所管理者、リーダーである。 ・会議では事業所の現状報告と問題点、行事の取り組み、地域ボランティアとの交流についてなどであり、サービスの向上に向けて率直な意見交換の場になっている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・利用者のことで都筑区福祉保健センターと連携を図り、行政関係情報を収集してサービスの向上に努めている。 ・都筑区役所の協力のもと、グループホーム連絡会で「認知症サポート連絡会」を発足し、地域で認知症を支えていく取り組みとして「まちかどケア」の研修会を行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族会を2ヶ月毎に開催しており、利用者の生活ぶりや介護計画、諸費用について詳しく説明している。 ・その他、3ヶ月ごとに法人が発行する機関紙「里だより」で、季節ごとの行事と共に利用者の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族からの意見や要望を積極的に吸収するために、面会来訪時や家族会で和やかな雰囲気作りに配慮している。 ・出された意見は職員会議で報告して全職員に知らせ、事業所運営に反映させている。	○	家族からの意見・要望の吸収には大変な気配りをされていますが、新しく入所される方のご家族もあり、その方々が気軽に申し出られる手段として「ご意見箱」の設置をされたいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動は殆んどなく、利用者や家族と馴染みの関係が築かれている。 ・職員の交代時には、新職員との引継ぎ・育成期間に1ヶ月をかけて、利用者の不安を極力少なくするように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新入職員には採用時研修と認知症に関する研修を行い、職務を通しての研修も一定期間行っている。 ・管理者は職員の研修計画を立て、必要に応じて勤務調整も行い、必要とする内外の研修参加を勧奨している。研修後、カンファレンスで内容を報告することで、研修内容を職員全員での共有に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡会主催の勉強会や交換研修会(3日間)に参加し、他の事業所を訪問し活動することで、日常業務の振り返りや気付きを得ることができて、サービス改善に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・事前見学時に事業所内生活について詳しく説明し、本人や家族の不安な思いや要望、これまでの生活状況について聴取し、入所後の介護支援に活かすように努めている。 ・入所後は、職員間で情報を共有して本人のペースを大切にして、安心して暮らせるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・食事の準備、洗濯物たたみ草花の手入れなど、利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。 ・利用者には、食材の切り方や下ごしらえその他様々な場面で、「こうやると楽だよ」「もったいない」などと教えられ、生活の知恵を学んでいる。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者と話をする機会を多く持って、本人の希望や意向を把握し業務日誌や連絡ノートに記録している。 ・意思疎通が困難な利用者の思いや意向は、事前に家族から聞いておくと共に、しぐさや表情を見て把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画は、利用者のアセスメント(センター方式)、業務日誌をもとに担当職員が作成し、それをカンファレンスで検討している。 ・介護計画には、利用者と家族の意見や要望、かかりつけ医の助言を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は2ヶ月ごとに見直している。 ・見直し期間途中で状況が変化した場合は、かかりつけ医や協力医の意見を聞き、本人や家族と話し合っ、現状に即した見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・かかりつけ医への受診時の付き添いや、毎月1回理・美容師を招き利用者の希望に応じている。 ・その他、利用者や家族の要望に応じて、できることは柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からのかかりつけ医の受診情報は協力医の加藤在宅医療クリニックに伝え、利用者の医療データは常に最新のものを共有するように配慮している。 ・2週間に1回、加藤在宅医療クリニックと歯科医の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合の介護の基本方針を入居時家族に説明し、確認を得ている。 ・加藤在宅医療クリニックの医師と連携を取り、終末期を迎える利用者の支援に取り組む準備をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・玄関に個人情報に関する基本方針を掲示し、職員は入社時にプライバシー保護について研修を受けている。個人情報に関する書類は施錠管理している。 ・日常的に利用者の誇りを損なわない言葉かけをし、名前で呼びかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者が何をしたいかを第一に考えて、一人ひとりの生活ペースに添った支援を心がけている。 ・利用者の行動については、残存能力の維持のため「できることは自分で」をモットーに、手をかさず見守る姿勢を心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員が交代で利用者の好みや季節の食材を取り入れて、家庭的な献立や味にこだわった食事作りをしている。利用者にも、買い物や調理などできることは参加してもらっている。 ・食事を楽しめるように、時折は弁当を買ったり外食をするなど変化をつけて支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・希望すれば毎日入浴できるが、一日おきに午後3時から夜7時までを入浴時間にしている。 ・入浴を好まない利用者には、状況やタイミングを見て声掛けをし誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の生活歴を参考として、炊事や洗濯ものの整理、園芸などをお願いして、自分の役割意識を持つことができるように支援している。 ・日常生活の中では趣味で楽しめるように支援し、イベントでは毎月の誕生会、初詣、花見、夏祭り、クリスマスなど季節ごとの行事を計画工夫して、楽しみと気晴らしのできる支援をしている。		

施設名:グループホーム そまやまの里 様

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は車椅子の利用者と一緒に、近くの寺や周辺を散歩したり食材の買い物に出かけている。 ・初詣、電車での花見、日帰り旅行、外食、野球観戦など、個人の希望にも添える外出の機会を積極的に作って支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・中庭から外に通じる門は、危険防止のため施錠しているが、その他は一切施錠していない。 ・日中施錠していない中庭に面している玄関には鈴を付け、利用者の動静が確認できるようにして見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・今年度、通報から初期消火、避難まで日勤の3人体制での避難訓練を行った。利用者・職員全員分のヘルメット、防災頭巾を常備している。地域の方も参加する防災訓練を近々実施予定である。 ・平成23年度までに義務付けられるスプリンクラー設置に向けて検討中である。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスを考えながら職員が交代で献立を作成し、1ヶ月に1度管理栄養士からカロリー量も含めてアドバイスを受けている。 ・各人別の摂取量は記録しているが、栄養や水分が不足がちな時は、ゼリー状にするなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は、高い天窓からの採光は豊かで、幅広い廊下は木の温もりが感ぜられ、ところどころに長椅子やボックスを置いて一休みできる場所を作っている。 ・居間のテーブルや椅子はゆったりとして落ち着きがあり、隣接する和室も家庭的な趣があり、利用者同士がくつろげる場所になっている。		

施設名:グループホーム そまやまの里 様

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は馴染みの調度品やテレビ、趣味の作品、家族の写真などを持ち込み、好みの柄のカーテンをつけて、利用者それぞれが居心地よく過ごしているように見受けられた。</li> <li>・居室入口には部屋毎にデザインした名札を掛けて、部屋間違いのないように配慮されている。</li> <li>・風邪の流行時、職員は室内にぬれタオルを掛けて乾燥を防ぐ工夫をした。</li> </ul>		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	そまやまの里
(ユニット名)	かえで
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区川和町1813
記入者名 (管理者)	かえでリーダー 江頭 毅
記入日	平成 21 年 2 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりの気持ちに寄り添い、同じ目線で接することを理念の一つとして取り組んでいる。	○	今後も、地域に密着した独自の理念を念頭に、その人らしい暮らしができるよう支援していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員が目にするところのできる場所に理念を掲げ、日々実践できるよう取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・ホーム便り・地域との会合などで、事業所の理念を理解してもらえよう取り組みをしている。	○	老人会などの入会はできないが同じ地域の施設間で交流ができればよいと思う。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の挨拶で積極的に交流を持ち、季節ごとのイベントや、ボランティアの受け入れなども行い日常的な付き合いができるよう努めている。	○	学校や商店とも交流を持ち、お互いの関係をより深いものにし、もっとホームに立ちよってもらえるような関係を築いていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域活動・行事に参加することで交流を深めている。	○	地域の芸能文化祭や音楽の集い等にも参加(見学)し楽しませてあげられると良い。

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方向けに勉強会を開いたり、ホームの行事に参加していただき地域の現状を聞いている。運営推進会議などでも地域の様子を聞くこともしている。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する意義は毎年原点に振り返り評価を受け止め、改善に取り組んでいる。	○	運営者、管理者、職員での話し合いをさらに深めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を設けて、事故報告も伝えていき、ありのままの現状を知っていただきサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	GH連絡会のブロック会議には参加して下さり、また今年度立ち上げた認知症サポート連絡会にも役所の方の協力を頂いて地域と連携を取りながら、少しずつ取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会があれば参加し、個々の必要性に応じて活用しております。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームは心のケアを大切に認知症の方と接しています。常に相手の気持ちになって関わっているか、時にはスタッフに声かけの注意をすることも必要で、防止には管理者始めユニットリーダーが防止に努めています。	○	今年度身体拘束廃止推進モデル事業施設になるために研修を受けました。地域の施設等と情報交換を行い身体拘束や虐待の撤廃に向け話し合いの場を作っていきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は細かく説明をしていき、解約する際は、事前に十分な説明を行っているようにしています。ご家族に納得していただくまで時間をかけて行っています。</p>	<p>○</p> <p>今後も十分な説明は行っていく予定です。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の苦情や意見については、スタッフと話し合いすぐに改善できる事は行っています。言葉で伝えられない人に関しては日頃のアセスメントを元に変化に注意して安心してもらえるケアに努めています。</p>	<p>○</p> <p>ユニットリーダーも現場に入っていく際、スタッフと一緒に考えて利用者さんから不満や苦情が来る前に対応を考えていくことに心がけています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族には細かく連絡を行い、説明させていただいております。その際ご家族の思いも聞いて、コミュニケーションを図っています。</p>	<p>○</p> <p>今後もこまめに連絡を取り、グループホームでどんな生活をされているのかイメージしやすい説明を行い、安心していただけることに努めていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族に関しては家族会やその他お電話などでこちらからも聞くようにしております。契約時にも外部の苦情処理の連絡先(第三者機関等)は伝えて説明しております。</p>	<p>○</p> <p>御家族には何か不安な事や苦情があれば「正直に言ってください」と伝えていくことは家族会などで今後も続けていくつもりです。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニットリーダーと統括リーダーから報告を聞いて、改善点にはすばやく対応してくれております。</p>	<p>○</p> <p>スタッフに個別に話を聞くことが必要だと思っているので意見を聞く時間も日々の中で作っていきたいと思っています。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の人数が少ないため、急な変化の対応は正規職員が対応し、出来るだけ無理のないよう調整には努めているが、どうしても休日出勤となってしまうのが現状です。</p>	<p>○</p> <p>職員の確保は厳しいため、正規職員が出勤で対応または勤務変更などが出来るよう努めていきたい</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所当初からスタッフの移動は行わず、馴染みのスタッフにこだわり続けています。ただ新しいスタッフが定着するまでに時間がかかりその間は入居者さんに迷惑をかけていることはあるかもしれないです。</p>	<p>○</p> <p>入居者さんにとって馴染みの職員が長く勤務していただけるように正規職員は努力が必要だと思っておりますので、それに向けて話しあっていききたいです。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に勉強会を行いスキルアップにつながるよう努めている又働きながらいろんなことを経験していただき自信をつけていただくよう見守っている。	○	今後も勉強会は続け職員のスキルアップは図っていききたいと思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都筑区のグループホーム連絡会や研修等で他のホーム職員や役所の方と交流を持ちサービスの向上に努めています。	○	都筑区は昨年の認知症サポート連絡会を通じて、交流が深まり来年度は若い世代の方にもっと認知症を理解してもらいたいと、それに向けて取り組みが始まっています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフから話を聞くことが一番だと思っています。できる限り、日々の様子を聞きながら、どのような事に悩みストレスを感じているのか気をつけてみていくようにしています。	○	個別カンファを設けて1人1人からの悩みなどを聞いていきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者はユニットリーダーにスタッフの様子を常に聞き把握はされている。又管理者は直接スタッフに対応しスタッフが向上心を持って働けるように努めています	○	今後も続けていきたい
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアを行っていくうえで本人の思いや不安を受け止め、そのことを書面に残し、変化を見ていくことで状況を把握している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族には小さなこともお電話で報告しており又来訪された際に日々の様子を伝えながらご家族の思いなども聞いている。要望などはケアプラン説明時に聞いている。		

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはホームに慣れていただくことを一番に考えケアを行っています。環境が変わることで不安定になることはあるため、本人の要望・思いを聞いて支援していくよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学していただくなどの配慮をし、できる限り本人の心理的不安を取り除く努力をしている。なお入居1ヶ月は手厚い見守りを行い記録なども増やしてアセスメントを行っている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	決して職員中心にケアが進まないようにリーダーは時には職員を注意していかねばならない時もあるが、今後も続けていきたい		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを聞きながら、一緒に考えていくことを大切にしていきたい。相談はいつでも話せるようなコミュニケーションを作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族も面会に来てくださったり、行事に参加してくださったりと、関係性は良い方がほとんどです。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙が届いたり、また以前お世話になっていたケアプラザの職員さんが様子を見に来てくれたりします。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日課の散歩では優しく声をかけ手を差し伸べたり決して孤立しないような見守りを職員は気をくばってきたい		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も手紙や電話での交流を持つことがあるが、直接的な関係や付き合いをもつことはなかなか出来ていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を日々の暮らしの中から聞きだし、ケアをしていく上で書面に残しできる限りの支援をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や馴染みの暮らし方などは可能な限り情報を集め、家族からも小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人の全体像を知る取り組みを書面にも残しながら把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中から本人のできること出来ないことを把握し、書面にも残しながら総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見や希望などを多く取り入れた介護計画を作成できるよう努め、それについて家族とも話し合いの場を設けている。	○	介護計画作成に当たり、特に本人や家族からの情報や希望を集め、さらに反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直し、変化が生じたときはその都度現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の勤務の中で記入した個別記録を振り返り、情報を共有しながら日々の支援に反映させ見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別を大切にご家族にも協力をいただき一緒に出かけたり、職員は柔軟に対応できるよう本人の思いを汲みながら支援を行っています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアには大変協力していただいている。警察、消防とも徐々に協働してきている。	○	文化・教育機関等との協力を更なるものにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所の方には、「こんなケースだったらどう対応するか？」などの相談等を行うことはあるが、直接的なサービス利用の為の支援とまではなっていない。サービスとなるとボランティアさんなどのインフォーマルなサービスにはつながると思います。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて本人本意の支援が出来るよう連携をとり協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った医療機関との関係を築きながら情報の伝達方法なども密に話し合っている。		

そまやまの里(かえで)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>本人の自尊心やプライバシーを傷つけないような対応を心がけ、職員間でも常に話し合い細心の注意をしている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>日々の生活の中で常に本人の希望を聞き、小さなことでも本人の了解をとって行動するようにしている。</p>	○	業務に追われ無意識のうちにも、本人の思いや希望を無視してしまっている場面も少なからずある為、自己決定の支援を更なるものにしていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>できる限り本人のペースを尊重していきたいが、どうしても職員側の決まりや都合を優先せざるを得ない場面もある。その場の状況でどこまでが本人の為かを考え支援している。</p>	○	「本人のペースでよいこと」「職員側の都合に合わせてざるを得ないこと」の判断について今後さらに話し合っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人や家族の意向に沿って希望の身だしなみやおしゃれが出来るよう支援できている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>可能な限り利用者にも献立作り、調理、片付けを行っていただき、利用者の意思や気持ちを大切にしている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>一人ひとりの利用者の嗜好を把握し、好みのものを選んでもらったり、手作りのものを全員で食せるよう心がけている。</p>		

そまやまの里(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、「オムツではなくパッドのみの使用」や「ポータブルトイレの使用」などで、できる限りトイレでの排泄を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は概ね決まった時間での入浴となっているが、状況に応じて時間帯をずらすなど、利用者の希望に沿った入浴を行っている。	○	タイミングの把握にもっと努力する必要がある。入浴を楽しむための雰囲気作りに更なる工夫を考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の休息のリズムや習慣を把握し、時に飲み物の提供や言葉かけにより安心して眠れるよう支援している。	○	安眠していただく為に日中の過ごし方を配慮し、散歩・体操等体を動かす事等で規則正しい生活のリズムを確立していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、レクリエーションの参加や炊事、家事の協力をお願いし、楽しみや気晴らしも、職員または入居者同士で共有できるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在自分で管理(お小遣い程度)されている方は極少ないですが、管理されていない方に関しては買い物に行かれた際にお財布をお渡ししてお金のやり取りなどをしていただいております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように散歩や買い物に出ており、希望があれば個別に戸外に出かけられるよう支援している。	○	団体での行動では行けない所もある為、個人の希望に沿うために今後も個別の外出を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や職員と、車・バス等で外出を楽しむ事がある。	○	一部の利用者に限られてしまう部分もある為、色々な制限や状況を考慮し、できる限り希望に沿う支援が出来るようになるとう良い。

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者は手紙のやり取りをしている。電話は利用者が直接かける事はないが、外部からの電話は受けている。	○	利用者側からの積極的な電話や手紙のやり取りを増やせるような環境や働きかけを更に行っていききたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時はお茶やお菓子を出すなどし、本人、来訪者にとって過ごしやすい状況を作り、ゆっくりと過ごしていただいている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで学ぶ機会を設け、職員間でもその都度説明、指導をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、職員間の見守り連携を行っている。	○	近所の方との見守り連携をもっと強化していききたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が一つの場所にかたまったり、利用者のいるフロアに職員がいなくなることを避けるよう日々声をかけあい、利用者の所在や様子を把握できるように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品の管理保管は職員が行っており、使用可能な利用者には使用後は元の場所に戻して頂く様声かけを行っている。使用の際は職員が把握し危険防止に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	想定される事故の防止、対応方法は職員間で話し合っている。事故やヒヤリハットの報告記録は保存され、具体的防止策を検討し共有している。		

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や勉強会などで、緊急時の対応を学んでいる。	○	状況による具体的な指導を指示する必要もある。いざという時になかなか発揮できないため、研修や勉強会をもっと沢山行ってほしい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練などを定期的に行い、非常用食料や備品も完備している。	○	同上
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて職員全員で共有、把握し、定期的な見直しも行っている。家族には家族会や面会時にその都度説明している。	○	特に医療に関する状況説明は詳細を伝える必要があるように感じる
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックだけに頼らず、利用者本人の顔色や様子を観察し、変化やサインは報告するとともに、簡潔に記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の早見シートを用意し、状況の変化を家族や医師に提供、相談している。	○	現在使用している薬以外も出来るだけ把握し、目的、副作用、用法、用量についてさらに理解を深めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因を理解し、自然排便できるようメニューや食材を工夫している。自然排便が出来ない方にはやむを得ず薬を使用しているが、個別に用法、用量を取り決めている。	○	自然排便ができるための献立作りや、マッサージ法などの勉強会をもっと行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援の必要な方には確実に実行しており、自立されている方も声かけ、見守りで確認できている。		

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの計算までは出来ていないが、一人ひとりの大体の摂取量や状態、力、習慣は把握し、良識の範囲内で支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いなど毎日の取り決めがあり、研修や勉強会等で新しい知識や技術を学んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものは季節により使用しない、残った食材には日付を書き早めに使うなどの取り決めを作り実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭には花の鉢があり、出入りしやすい明るい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本や、行事の際の写真、毎日の新聞がおいてあり自由に読んでいただけるようになっている。洗面所やトイレも明るく、カレンダーなどで家庭的な雰囲気作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でもソファやテラス、台所の椅子など、利用者同士の関係性も配慮しながら過ごせる居場所作りを工夫している。		

そまやまの里(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、使い慣れたものを持ってきていただき、今までの生活と変わりなく暮らせるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員の感覚ではなく、利用者の状況、状態に配慮し温度調節をしている。換気にも注意し、こまめに窓を開けたり空気の入替えを行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やフロアなど段差はなくし、トイレや浴室、廊下には手すりが設置され身体機能に応じた生活が出来ている。状況によっては車椅子も使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力を引き出してあげられるような声かけの工夫と対応を心がけ、全職員で共有し連携をとっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや中庭にはベンチがあり自由に日光浴などしたり、利用者同士で会話を楽しめるような作りを心がけている。鉢植えや花壇への水やりも出来るようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

そまやまの里(かえで)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・チームケアの実施

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	そまやまの里
(ユニット名)	けやき
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区川和町1813
記入者名 (管理者)	けやきリーダー 浦 順子
記入日	平成21年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	理念がケアを行っていく上での基本と」なることをこれからもスタッフに伝え続けていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	原点に振り返るときに理念を読み返しもう一度支援することの意味考えていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	スタッフに地元の方がいるために情報も早く知ることができると感じていたため継続していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や老人会の方から今の地域の現状を聞いて地域で役に立つことや困っていることなどを聞くことができる。	○	地域を知るチャンスをスタッフにも与えていき地域での取り組みに参加してもらいたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことによって日々の対応を振り返ることができるという意義があり、外部評価では第三者の方に入っていた客観的にホームを見て評価していただくことで原点に戻れるために改善に努めています	○	より良く理解するためにも具体的な報告や説明する機会を設けより良い改善が出来る様取り組んで行く
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告もあれば報告を行っております。話し合いの中から地域の現状も聞くことができるため、有意義な話し合いとなっている。	○	会議内容を職員にも知らせ全員でサービス向上に活かせる様にしていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会ではブロック会議が2か月に1回のペースで行われており、必ず会議には参加され、前向きに質の向上に取り組んでいただいています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等学ぶ機会を持たれている。家族等には管理者からの説明により情報提供されている。	○	職員全員が理解できる様に管理者からの説明の機会を今後も設けていき研修等積極的に取り組んでいきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に市配布のパンフレットや各著書からの抜粋文などを参照し話し合いを設け防止の認識を学び防止に努めている	○	今後も話し合いを継続していき確認し認識を高め、見過ごされる事のないよう管理者・リーダーから積極的に防止につとめていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族との十分な話し合いを行っており、理解・納得は図られている	○	家族より職員に内容を尋ねられた時には管理者を介して伝えてもらい不安や疑問に対応していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との関わりの中で本人の意思を探る努力は成されている。不満、苦情、意見を訴えてきた際は管理者、職員で話し合い検討し対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時等常に現状を説明している。暮らしぶりや季節毎の行事、様子など定期的に伝えている。(ホーム発行里だよりなど)		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも不満や苦情が言いやすいようにこちらからも聞くように努めたり、もし苦情などがあった場合は運営推進会議でも報告は事故報告と同様に報告することとなっている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンスの中で話し合いや意見を述べる機会を設けている。利用者の受入れ、職員交代に対しての意見を述べる機会も設けられている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間365日のローテーションが組まれており、夜勤専門ではなく日勤にも携わっており関わりは出来ている。夜勤者専門に関しても細かい送りの中で日中の様子がわかる様徹底されている。	○	柔軟な対応には現実正規職員の対応で行い、無理のないシフトで組めるよう努力していきたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	殆ど職員の異動はなく利用者が馴染みの管理者や職員により支援されている。又交代時には新職員との引継ぎ(育成)も期間を取り行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の分け隔てなく研修等参加している。研修内容等報告する場を設け職員全員で共有している。</p>	○	外部の研修にも参加し、質の向上につなげていく
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互研修の実施がなされておりサービスの向上に努めている</p>	○	地域の同業者と相互訪問の機会をより多く持ちたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩する場所を設けられており、利用者と離れて休憩が出来る様に配慮されている。問題点があれば話し合いの中でそれに向けての対応に努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフの努力や思いは汲み取っていき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。積極的に仕事を任せられるスタッフにはお願いしている</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>不安、苦しみなどを理解し状況を把握した上で利用者本位である事、安心して生活できる事を第一に関わりを持ち信頼関係を深めている。</p>	○	良く耳を傾け聞くゆとりの支援を行い、より良い信頼関係を築ける様努めていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の要望、希望を聞き話し合いを設ける事により信頼関係を作る様に勤めている</p>	○	不安、意向などにも耳を傾け改善に努めより良い信頼関係を築く様勤めていく

そまやまの里(けやき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応と見極めは管理者とユニットリーダ・統括リーダーの正規職員が行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人やご家族に見学していただきご本人に不安がないように配慮していく。入居されてからは職員間で申し送り時に細かいところまで伝えて、情報を共有し心理面を支えていくよう努めている	○	場所や人に慣れるまでに時間がかかると思うのでゆっくりその方に合わすことを大切にしていきたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備・洗濯物たたみ・草花の手入れなどを共に行う中で、利用者の方から私たちは学び、いろんなことを共有することで支え支えられているような関係が築かれている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来訪時にはもちろん、お電話での報告も行っていきご家族と一緒に支えている関係を築いていると思っています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	色々なスタンスで親子関係が築けていると実感しております。本人とご家族の支援をできる限り良い関係に保てるように間に入り支援させていただいている	○	家族の悩みや思いも聞いていく必要あり
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出などを定期的に行い、馴染みの人や場所が途切れないようできる限り支援を行っている。	○	今まで通り支援していきたいまたいろんなアイデアを職員は出し合って計画に取り入れていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の思い違い、相性などに充分注意を向けぶつかることは仕方ないことなので問題が大きくなるよう配慮している。又孤立しないようスタッフが声をかけ気にかけて皆さんを見守っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙のやり取りや連絡を管理者とユニットリーダーが行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意見意向を尊重してできる限り希望に沿った支援は行っているが難しい場合は話を聞くことで気持ちを汲むことに努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の記録や家族からの情報によりこれまでの暮らしの把握に努めている。	○	ご家族にもお聞きしてみる又は会話の内容を記録に残していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとり一人の一日の生活リズムや変化を記録し現状把握出来る様に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々にプランを作成しており変化に応じその都度見直しを行い、利用者主体の暮らしを反映したプラン作成をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時はすぐに見直しを行い、管理者、職員、家族、本人(は意向に沿うよう事前に話を聞く)と話し合い現状に即した計画を作成している		

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯にて日誌に個別に記録しており、日々の様子や状態等も押し送りやミーティングで情報を共有し実践や計画見直しに反映されている。	○	ある程度の共有はなされているが全てにおいてとなると課題は残っている。全員理解、共有し介護の実践にあたる必要がある。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な対応ができるよう又本人が希望することや望んでいることは支援したいと考えているので状況に応じて、できる範囲で行っている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	花見では、地域の方の協力を頂き、車いすでは無理ではないかとあきらめかけましたがボランティアさんのおかげで、電車に乗って出かけることができました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の同業者との話し合いは行っていますが、直接的な入居さんへの他のサービスにはつながっているか考えるとそうではない。個人の支援より、地域に向けた支援につながるような気がする。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	基本的には管理者が行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に(二週間に一度)往診の医師にきて頂いている。又利用者の希望により他の病院受診も行っている。		

そまやまの里(けやき)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではありませんが、二週間に一度往診の医師にきて頂いている。先生には最近の様子を細かく聞いていただき適切な治療を受けています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの医師に指示を仰いでいる		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が行っている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に管理者による説明、話し合いにより共有されている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今の段階では重度、終末期の利用者はいないが、チーム一丸となって支援に取り組み、変化に備え検討や準備がされている		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合い、情報交換を行いダメージを防ぐ事に勤めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性に合った言葉かけと対応に配慮している。また個人情報は所定の場所に保管してある。	○ プライバシーの確保の徹底には細心の注意をしていくとともに職員の意識も徹底していく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方の表情などに気配りし、職員の方から声かけをして要望をできるだけ受け入れるようにしている又ご本人が納得するまできちんと説明をしているそしてご本人が選択できるような話しかけにも気を配っている	○ 何でも言い合える関係を作っていきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の方の一人ひとりのペースで過ごしていただくよう心掛けているが、他の方の身体介護に追われることもあり、スタッフの思いと行動が伴わないこともある	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔美容室をされていた利用者さんはお弟子さんの所へ通っていましたが、その方が歩行が難しくなってきたために、現在は訪問に切り替えてホームに月1のペースで来て下さっています。	○ ある利用者さんから昔お世話になっていた理容室に行ってみたいという要望があるため少し遠いので、時間を作ってご本人さんの要望に沿うよう計画していきたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を一緒に買いに行き、利用者さんには押しつけるようなお願いはしないように心掛け感謝の気持ちも伝えていきます。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコや好みの飲み物を選んでいただいています。たばこに関しては約束をしていただき、灰皿には水を入れて、吸う場所を設けていただいています。	

そまやまの里(けやき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとり一人の排泄パターンを把握し本人の生活リズムに添った支援を行っている。生活リズムが取れない利用者には定期的に声をかけ誘導している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	15:00～17:00くらいの間に入浴時間を設け、毎日入りたい方は希望に沿うよう行っている、あまり入浴が好きでない方、失敗で汚れてしまった方などの対応も行っている。	○	チームで支えて入浴が快適な時間となるよう継続していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自立の方の就寝時間はその方の習慣を尊重し日々の生活に支障がない範囲で本人の判断にお任せしています。	○	介助の必要な方には表情などから又は生活リズムを崩さぬよう支援していきたい
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者さんの得意分野があるため一人ひとりの思いを大切にしながら楽しみ事も含め支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム側で管理している。希望に応じ使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや散歩など支援されている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出は計画を立てて、ご本人と担当職員とが計画を立てて順番に行っています。お墓参り・家族も一緒に外出するなど		

そまやまの里(けやき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接かけたり、希望があれば職員が取り次いだりしている。また手紙のやり取りや電話の受け継ぎも支援されている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常時来訪していただける様な体制になっており、居間や居室などゆっくり過ごしていただけるよう配慮されている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解しているとは解からないが、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけることは行っていない。夜間帯は玄関に鍵をかけている	○	状況に応じ一時的に鍵をかける事もある。鍵が不要になる様な利用者の心のケアが出来る様に努力していく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声かけの徹底を行い、利用者の所在や様子を把握できるようにし安全に考慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品の管理保管は職員が行っており、使用可能な利用者には使用後は元の場所に戻して頂く様声かけを行っている。使用の際は職員が把握し危険防止に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の取り組みがなされている。事故が生じた場合はすぐに報告し記録後に申し送りなどで防止策を検討している。		

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命報法の学習、講習を定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的実施している。防災頭巾、ヘルメットを常備している。	○	日頃の職員同士の取り決めを行う必要がある。地域の方への働きかけをしていく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対応に関する説明は管理者とリーダーが行っているが、起こりうるリスクに対しては管理職、職員で対応策などを定期的話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子を見て体調の変化や異常を見逃さない様に心がけている。毎日のバイタルチェックを行い記録話し合いの中で発見に努め対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書が日誌に綴じてあり、職員は目的、用途などを把握できるようになっており症状などの変化を記録している。	○	定期的に服薬の目的を職員間で話し合い理解の徹底をしていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い食べ物等で調整している。又歩行や体操など体を動かせることを働きかけている。薬剤使用時には服用量や日数など工夫している。	○	出来るだけ薬を使用せず、自然に排泄できる様さらなる工夫をしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。介助を要する方にはその方に応じた対応をしている。液体歯磨きなど		

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の申し送りの中で食事は把握する事が出来ている。特定ではあるが水分量のチェックを行い記録している。	○	専門家からのアドバイスを定期的に受けられたら良い
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する対応マニュアルが設置してある。インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員毎年受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は必ず殺菌消毒を行い、冷蔵庫内の食材は整理をこまめに行い使用期限を考慮し、献立内容を変更するなど工夫し食材を使い切っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺には植栽や季節の草花が植えてあり、中庭にはベンチやパラソルを立て育てた花を楽しむ事ができ明るく暖かな雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁面には写真や飾りを施し季節感を味わっていただいている。また生花や鉢植え、観葉植物など飾られており空間づくりに配慮されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、ベンチ、腰掛、長いすが設置されており利用者の方は自由に利用されている。喫煙所も設けるある。	○	自分の椅子だけでなくソファの活用は利用者にとってリラックスできている様なので空間の大切さを常に考えていきたい

そまやまの里(けやき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が利用してきた馴染みのものを居室に据え安心して過ごせる工夫がなされている。	○	馴染みのものと同様に入居してからの皆さんとの思いでの物や写真なども大切にしていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時や必要に応じ空気の入れ替えを行い、利用者の状況に応じて温度調節に配慮している。	○	排泄介助の際の換気調整を考慮していく必要あり
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの身体機能を活かした環境作りは難しいが、安全かつ自立した生活が送れるように工夫されている。	○	介助の方のトイレの便座の高さや座った時の安定感などをもう少し考えていきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	共有部分の表示を明確にしておき、ゴミの回収や傷の修復をし混乱を避ける工夫をしている。	○	わかりやすい説明の仕方は今後もスタッフの課題である
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にベンチが設置され、日光浴や花壇の手入れ、草花を眺めて楽しめる。	○	北側ベランダの活用について工夫する必要あり

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

そまやまの里(けやき)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・チームケアの実施